

ごみと戦う人々

さっぽろ
ごみ
奮闘記

毎日、市内の至る所で生じ続けるごみ。地域やごみの現場には、わたしたちが捨てたごみと日々向き合い、奮闘する人々があります。このシリーズでは、そんな「ごみと戦う人々」にインタビューし、その活動や思いに迫っていきます。

[詳細] ごみ減量推進課 ☎211-2928



現場の様子

町内会の生ごみ堆肥化講習会。受講者からは、うまく作るコツや失敗への対処法など多くの質問が挙がる。佐藤さんは、「堆肥化でごみを減らすだけでなく、そもそもごみを出さない工夫も大切」と呼び掛ける。

Vol. 3

循環ネットワーク北海道 生ごみ堆肥化講師 佐藤 順子さん

燃やせるごみの約半分を占める生ごみ。この生ごみの減量に有効な手段が堆肥化です。10年前から、段ボール箱での生ごみ堆肥化に取り組む佐藤さんは、市内各地でその方法を分かりやすく教えています。



手軽で、減量効果が大 段ボール箱での生ごみ堆肥化

——段ボール箱を使うと、誰でも手軽に生ごみを堆肥にできるんですね。

はい。手に入れやすい材料を使い、室内でできるので、冬でも、マンション住まいの方でも行えるのが魅力です。箱は丈夫な10kg用のミカン箱が最適。その中に基材として、ピートモス(泥炭)と、もみ殻薫炭を半分ずつ入れます。どちらもホームセンターで数百円で購入できるので、手軽に始められますよ。

——堆肥をうまく作るコツは？

生ごみは微生物の分解によって堆肥になるので、微生物が働きやすい環境を整えることが大切。15℃以上の場所に置き、一日一回はよくかき混ぜて、空気を入れましょう。

——においや虫の発生を心配する声もあります。

魚やイカの内臓を大量に入れると、においが強くなったり、時には小バエや粉ダニが発生したりすることもあります。においはよくかき混ぜ、基材を足すことでほぼ解消できますし、虫は使用済

み食用油などを混ぜ、段ボール内の温度を上げると退治できます。

——1箱で処理できる生ごみの量は？
4人家族の1日の生ごみ量約500g*を、約3カ月間、処理できます。終了までに約40kgの生ごみを入れる計算ですが、箱の中は数cm程度増えるだけなんです。

——それは大きな減量効果ですね。
ええ、生ごみの変化が目に見え、微生物の力を実感できるのが面白いんです。この方法はもちろん、コンポスターでの堆肥化や生ごみの水切りなど、一人一人ができることから、ごみを減らす工夫をすることが大切だと思います。

*循環ネットワーク北海道調べ



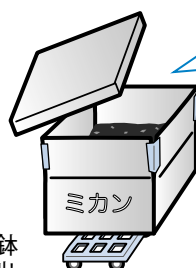
生ごみを入れ、全体をよくかき混ぜる。段ボール箱は、分解に伴って出る水分を放出させるため、生ごみのかさは次第に減っていく

☑ CHECK!

ワンポイント 段ボール箱で 生ごみ堆肥化

【準備】

- 1.箱を組み立てる
・ふたを起し四隅をガムテープで固定
・別の段ボールでふたと底に敷く中敷を作成
- 2.基材を入れる
・ピートモスと、もみ殻薫炭を半分ずつ
- 3.通気性を良くする
・木片などで床から5cmほど離す。植木鉢用のキャスターなどを敷くと移動も便利!



【毎日の管理】

- 生ごみを入れ、よくかき混ぜる(約3カ月間)
- 1~2カ月寝かせる
- ↓
- 堆肥が完成
花や野菜作りに活用!

市のごみ排出量の現状

—— 目標400g以下 ——
一人1日当たりの平均排出量
396g

数字はごみ排出ルールが変更になった昨年7月~今年9月の廃棄ごみの平均です。